



そっと肩を押す

今年の桜は早くも満開です。この塾も高校受験では入試直前指導に参加してくれた人は全員合格でした。大学受験では入試が多様化し、指定校推薦、総合型選抜、国立大学の後期入試まで日程も幅広く、それぞれに対応する日々でした。いずれにしろ各々の希望する高校・大学でスタートを迎えてくれることをうれしく思います。

今年の千葉県公立高校入試の国語が難しかったことは前号でも触れましたが、特に論説文の後半の問題はやっかひでした。心理学的知見からなる人の行動特性を経済学に取り込もうとしてノーベル経済学賞を受賞したダニエル・カーネマンを例に挙げ、モチベーションの仕組みについて説いた文章です。題材そのものはとてもおもしろいものなのに、それを難解な問題にしてしまったところがとても残念なことでした。

行動経済学の先駆者がカーネマンですが、その後も研究が続けられ行動経済学的知見を使うことで人々の行動をより良いものに誘導する「ナッジ」という考えが広まるようになりました。詳しいことは高3の大学受験生に貸していた岩波新書の「行動経済学の使い方」に事例とともに載っています。そもそも「ナッジ」という言葉は「軽くひじでつつく」「そっと肩を押す」というニュアンスの英語です。人間の行動特性を踏まえて自由な選択を確保しつつ、より良い意思決定をうながし、より良い行動を引き出すという考えは私たち学習指導にあたるものだけでなく保護者の皆様にも参考になると思います。例えば計画はできるのに、それを実行する時になると現在の楽しみを優先し計画を先延ばししてしまう人間の特性を行動経済学では「現在バイアス」と言います。「早く〇〇しなさい！」がほとんど通じないのはご経験のことでしょう。それに対して締め切りを細かく設定することが先延ばしを防ぐのに有効なことを示す実験もあります。また現在バイアスが理由で先延ばししている子には、先延ばしすること自体を面倒にするナッジを作ればよいというヒントも。ご家庭でそっと肩を押す方法を考えてみてはいかがでしょうか！